

1 調査の概要

（平成23年度から全児童・生徒を対象として全校で実施 通称「東京都統一体力テスト」）

- (1) 調査時期 平成27年4月～6月
 (2) 調査対象 （都内公立学校 全児童・生徒）
 小学校1,292校（558,727名）、中学校621校（224,523名）、中等教育学校6校（5,489名）
 高等学校全日制173校（123,299名）定時制・通信制55校（11,250名）
 特別支援学校45校（5,897名） 計 2,192校 計929,185人

(3) 調査内容

- ① 児童・生徒に関する調査
 ア 体力・運動能力調査（文部科学省指定 新体力テスト実技8種目）
 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン
 50m走、立ち幅とび、ハンド（ソフト）ボール投げ
 イ 生活・運動習慣等の実態に関する質問紙調査
 ② 学校に対する質問紙調査

(4) 調査結果

- ① 全児童・生徒に個人票を還元
 ② 全学校に学校票を還元
 ③ 区市町村教育委員会に域内の学校、児童・生徒の情報を提供
 ④ 東京都は全体状況について分析・考察し、報告書を取りまとめ

2 結果の概要

(1) 体力・運動能力の状況

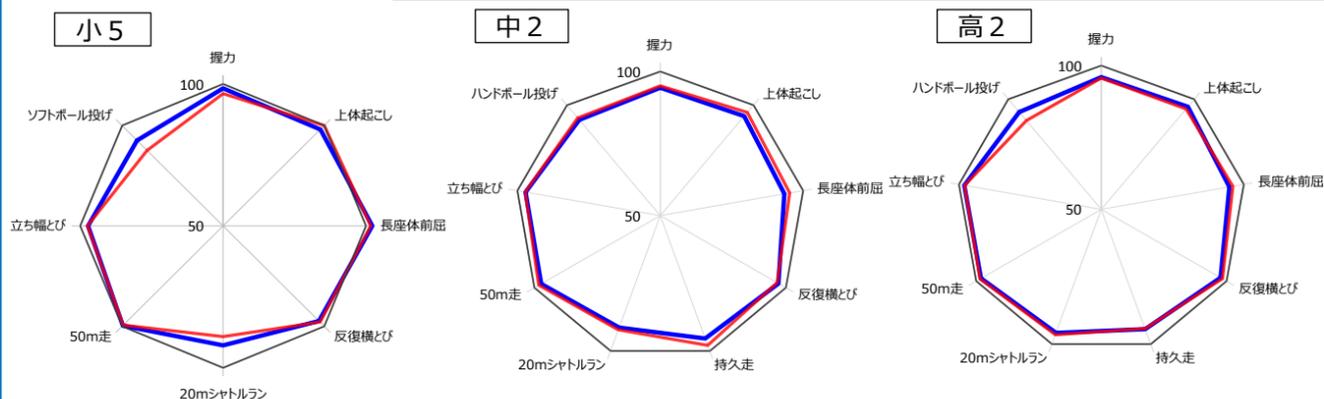
① 種目別の状況

※平成26年度体力・運動能力調査（スポーツ庁の抽出調査）との比較

全国平均値を100とする。

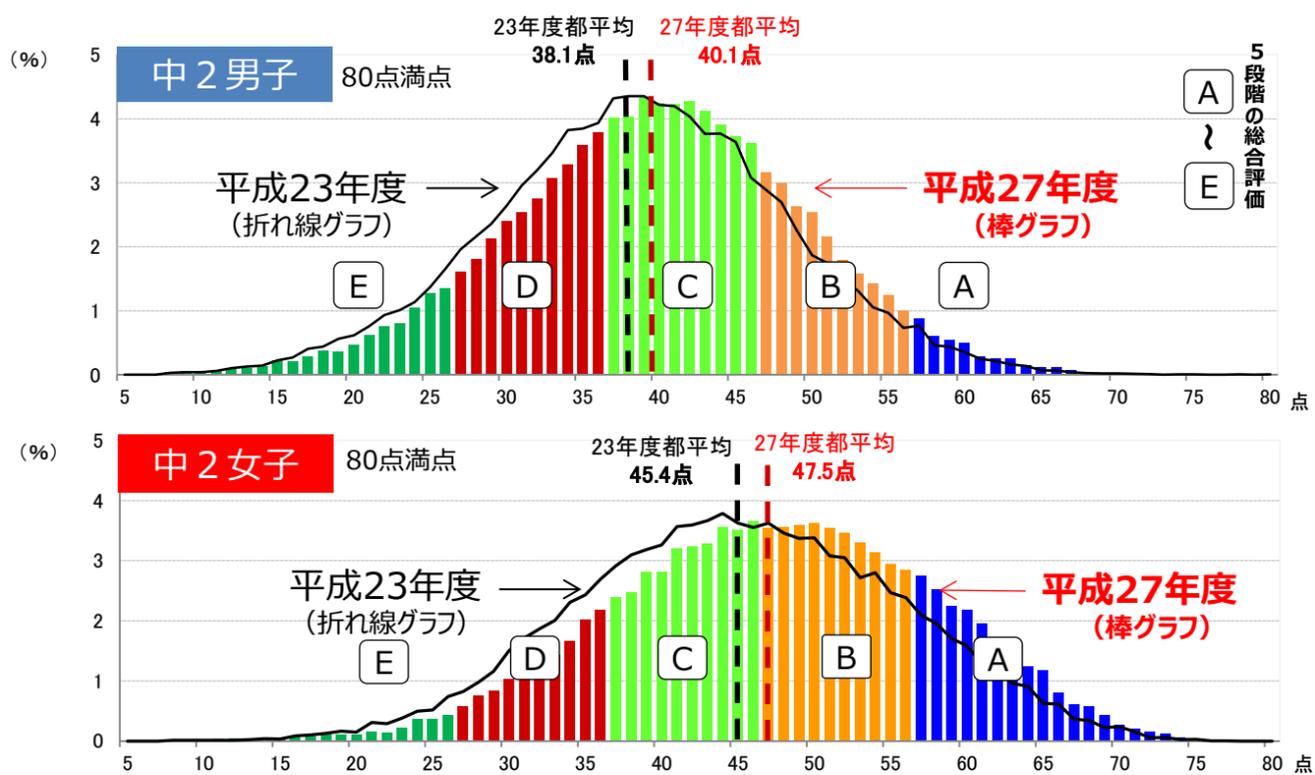
男子；青線
女子；赤線

- 小学生は、長座体前屈や50m走において全国平均値と同程度または上回っている。握力・ソフトボール投げは全ての学年で下回っている。
- 中学生・高校生は、全ての種目において、全国平均値を下回っている。



② 体力合計点の分布状況

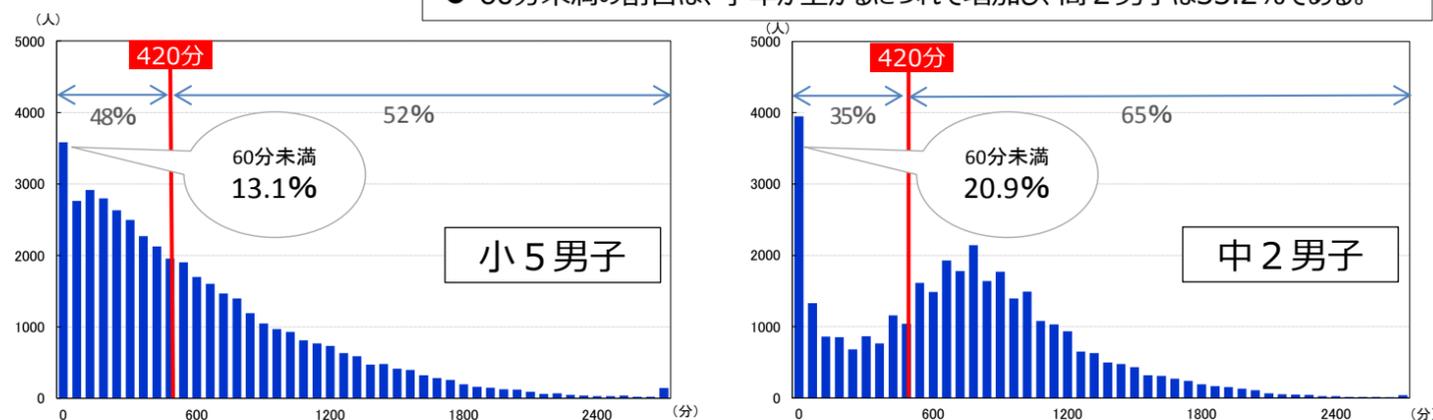
- 東京都統一体力テストを開始した平成23年度と比べると、全学年ともに向上傾向を示しており、体力合計点の平均値も上昇。



(2) 生活・運動習慣の状況

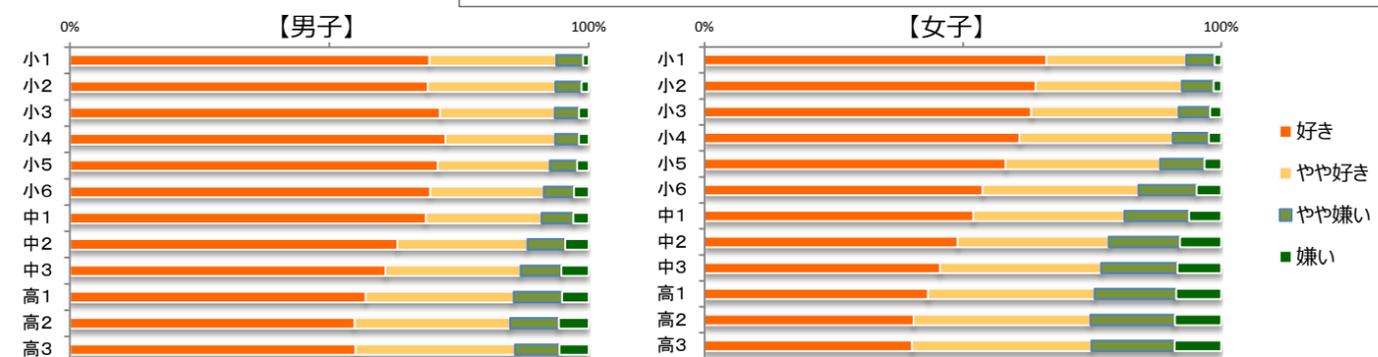
① 一週間の総運動時間

- 一週間の総運動時間の目標値420分（60分×7日）に達していない小学生は5割、中学生は4割を占める。
- 中学生期においては、運動する、しないの二極化傾向が顕著である。
- 60分未満の割合は、学年が上がるにつれて増加し、高2男子は33.2%である。



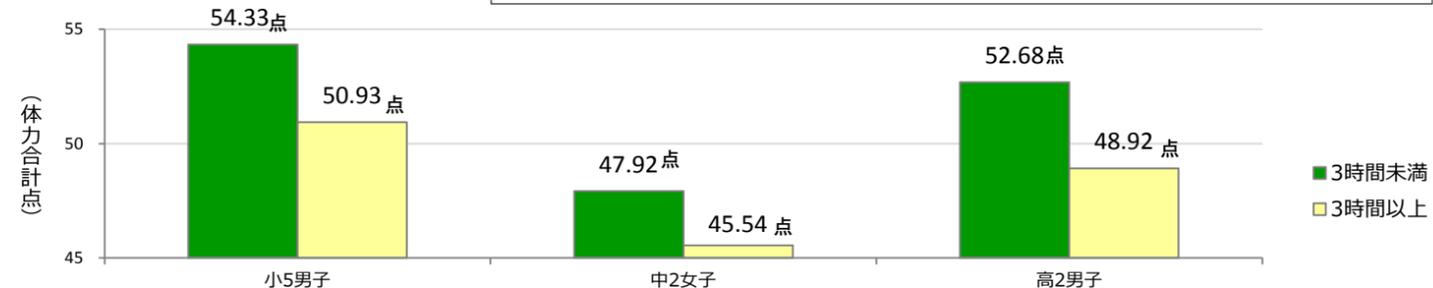
② 運動・スポーツの意識

- 男女ともに運動・スポーツの「好き」の割合が学年が上がるにつれて減少する。特に、女子においては顕著に減少する。
- 女子は男子に比べて「嫌い」「やや嫌い」を回答する割合が多い。



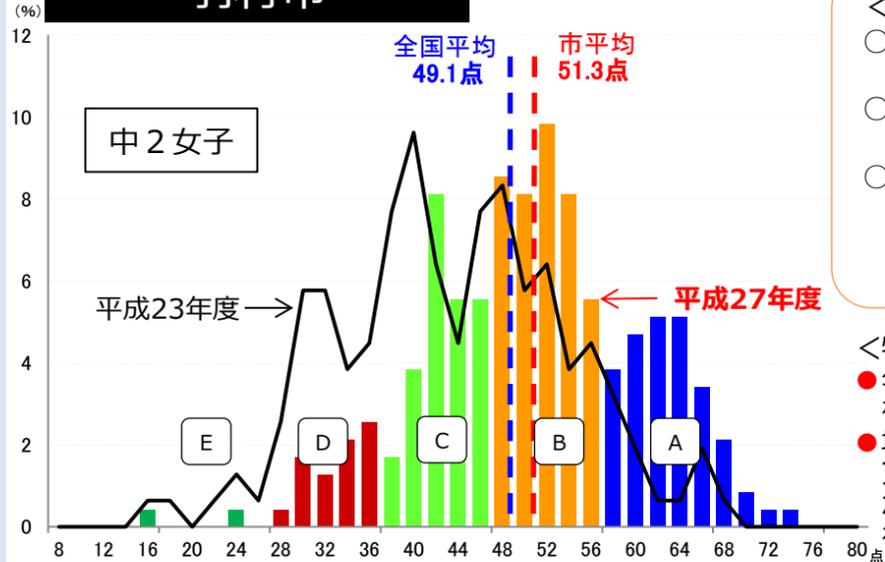
③ 携帯電話と体力の相関

- 携帯電話・スマートフォン等を長時間使用している児童・生徒は体力が低い。



区市町村

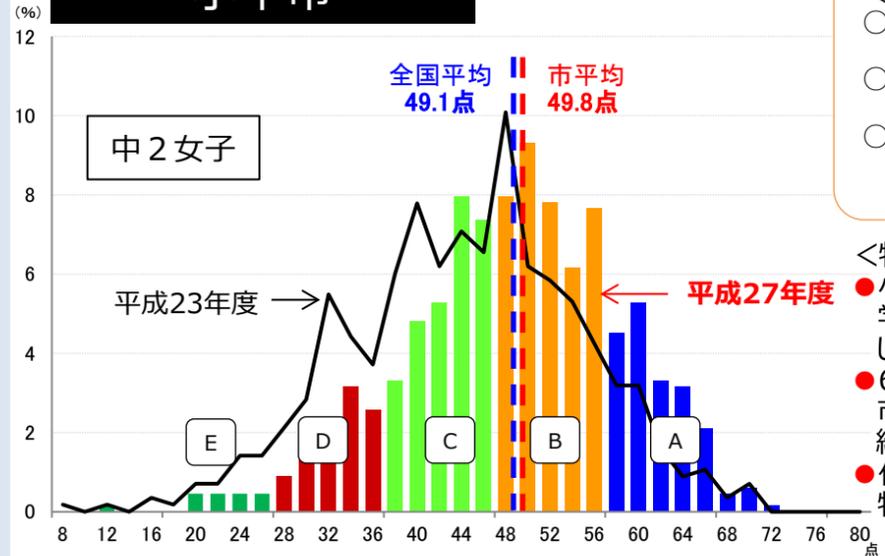
羽村市



- <現状>
- 体力合計点が、全国平均値を2～3ポイント以上、上回っている。
 - 総合評価A・Bの割合が、平成23年度から年々増加し、7割を超えている。
 - 運動部活動の加入率が、男子8割、女子6割であり、「毎日運動をしている。」の割合が、都平均と比べて極めて多い。

- <特色ある取組>
- 年間を通して、学校と地域が連携して体を動かす行事や取組を行っている。
 - 地区対抗による少年少女球技大会（ソフトボール・キックボール）や小学生ドッジボール大会、桜堤ジュニア駅伝大会等を行っており、低学年から取り組んでいる。

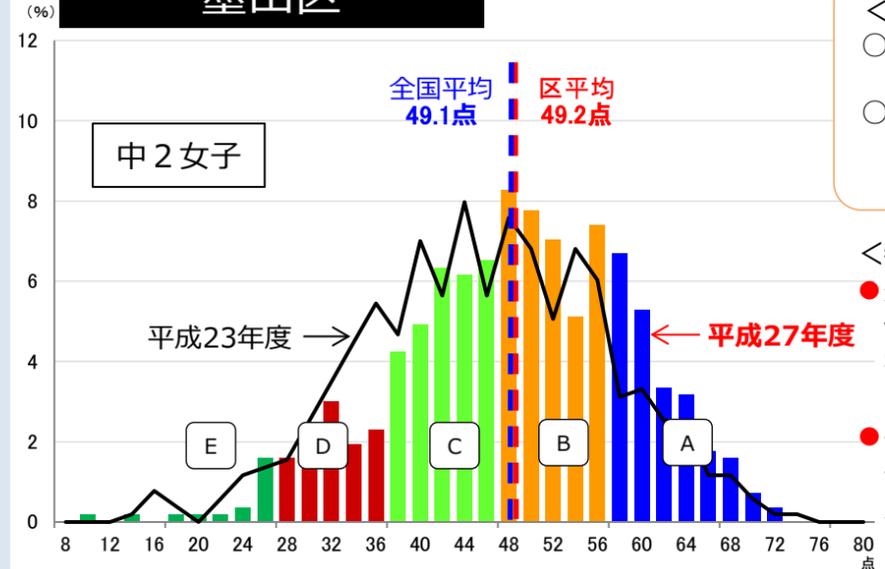
小平市



- <現状>
- 体力合計点が、全国平均値を1～2ポイント以上、上回っている。
 - 総合評価A・Bの割合が、平成23年度から年々増加し、6割を超えている。
 - 運動やスポーツをすることが「好き」の割合が、男子7割、女子6割であり、都平均を大きく超えている。

- <特色ある取組>
- 小平市教育振興基本計画に基づき、小・中学校が連携し、9年間を見通した指導を実施している。
 - 6月に「こいだいら一斉体力テスト週間」を設定し、市独自の9年間を見通した個票を活用する等、継続的に体力向上の意識を高めている。
 - 体力テストの結果を踏まえ、各学校が課題に特化した取組を推進して、更なる向上を目指している。

墨田区



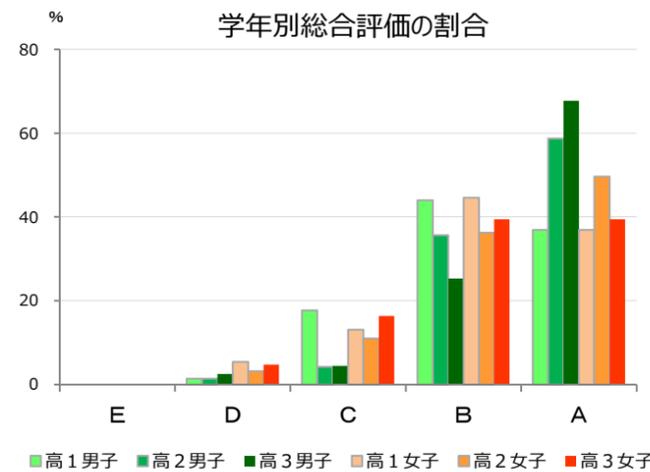
- <現状>
- 体力合計点が、全国平均値と同水準である。
 - 総合評価A・Bの割合が、平成25年度から年々増加し、6割を超えている。また、D・Eの割合が、年々減少している。

- <特色ある取組>
- 墨田区体力向上プロジェクト検討委員会を設置し、体力テストの分析に基づき、学校へ課題解決に向けた取組を発信している。
 - 各学校は、体力テストの結果を分析し、体力向上プランを作成し、PDCAサイクルで取組を推進している。

全国平均；平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

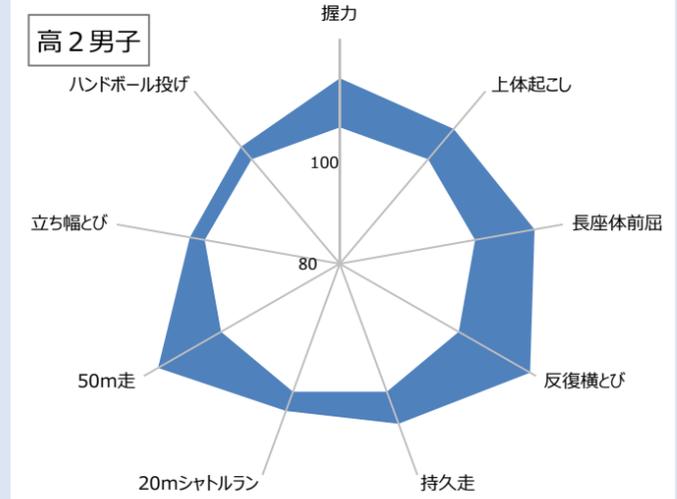
都立高等学校

東大和高等学校



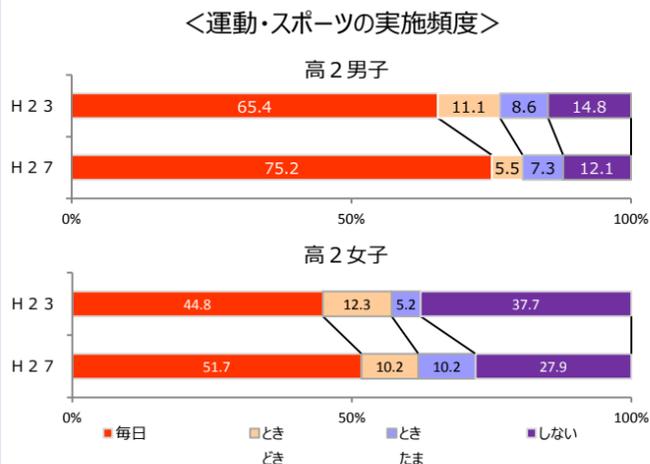
- <現状・取組>
- 全学年・男女ともに体力合計点が、全国平均値を上回っている。
 - 総合評価A・Bの割合が、男子は9割、女子は8割を超えている。
 - 総合評価Eの生徒がいない。
 - 教育目標に「スポーツの振興」を掲げ、部活動を推進している。
 - 8割の生徒が運動部活動に加入しており、活動を通じて心身の健全な育成を図っている。

立川国際中等教育学校



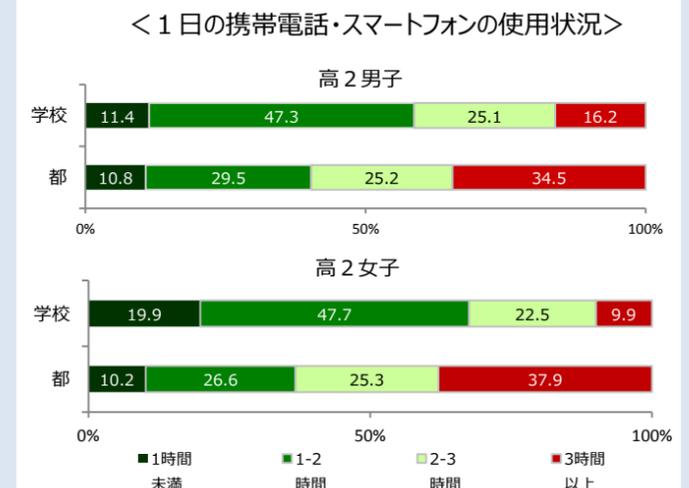
- <現状・取組>
- 全学年・男女ともに体力合計点が、全国平均値を超えている。
 - 全種目、偏りがなく、数値が高い。特に握力については、全国平均値よりも1～5ポイント上回っている。
 - 全ての体育の授業や部活動で、サーキットトレーニングやランニングを実施するなど、6年間継続して基礎体力の向上に向けた取組を推進している。
 - 生徒は自己の体力テストの結果を分析し、自ら課題を解決しようと意欲をもって取り組んでいる。

昭和高等学校



- <現状・取組>
- 全学年、男女ともに体力合計点が平成23年度から2～3ポイントずつ上昇している。
 - 運動の実施頻度において、「毎日している」の割合が男子は7割、女子は5割を超えている。平成23年度以降、「毎日している」の割合が増加している。
 - 体育授業で、3年生は運動種目を選択、2年生は縄跳び、1年生はフライングディスクを導入するなど、生涯スポーツを意識して取り組んでいる。また、運動を苦手とする生徒に対して、段階的な指導や楽しさを感じさせる指導を行い、運動習慣の確立を行っている。

西高等学校



- <現状・取組>
- ほぼ全ての学年・男女ともに体力合計点が、全国平均値を上回っている。
 - スマートフォンを3時間以上使用する者の割合が男女とも1割程度で都の平均に比べて極めて少ない。
 - 7割の生徒が運動系部活動に加入している。
 - 教育理念の「文武二道」に基づき、体育の授業や行事、部活動の充実、遅刻防止月間、正しい生活リズムの育成等、学校全体で生活・運動習慣の確立や体力向上の取組を推進している。